

2024. 10

vol. 123

改訂版 vol. 53

## 女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



### ◆新任の挨拶

井之口 洋子

今年度から2年間、女性副委員長を務めさせていただきます井之口です。

最初にお話が来たときは、飛騨にいてなかなかネットワーク軽く動けないのに何かお役に立てるのだろうかと不安に思いました。

ですが、昨年の2月に東海北陸ブロック会議の後期大会が下呂で行われた時にお手伝いをさせて頂いたことで、女性建築士ならではの視点でワークショップを行ったのがとても印象に残りました。

少しでも女性委員の底力が知ってもらえると良いなと感じまして、引き受けることにいたしました。

今年の7月には初めての全建女に参加しまして、改めて女性委員の活躍ぶりを肌で感じてきました。

最近の震災の報告もあり、経験者が語る内容はとても重かったのですが、建築士として何ができるのかを見つめ直したいという言葉は何回も聞きました。

幸い地元では災害が少なく、危機感が薄れていたのですが改めて建築士としての職業について考えさせられました。

さて、来年の2月には令和6年度ブロック美濃・関大会が青年委員会と共同開催されます。まだまだ分からないことも多いのですが皆様と先輩方と手分けして準備を進めております。

是非、日頃出られない方にも参加して頂いて岐阜県の魅力を広めていきたいと思っています。

どうぞ宜しくお願い致します。



### ◆運営委員長から相談役・出向者へ

長瀬 八州余

令和4年度、令和5年度の2年間 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会の運営委員長を受け、令和6年度、令和7年度の2年間は相談役と連合会出向者となった、長瀬八州余です。

令和4年度の前期は、愛知県が開催県で、愛知県はWEB会議が慣れているので、安心していました。資料等は前任者の石川県が手伝ってくださったので、わからないなりにやりきることができました。

令和4年度後期は下呂大会で、岐阜県での開催だったので、皆さんに助けていただき、良い大会が運営できたと思います。他県からの参加の方も満足していただけました。

令和4年度臨時WEB会議を開催しました。コロナ禍でWEB開催が一般的になり、後期会議だけでは処理できなかった議題を話し合う事ができました。以前のように対面だけの会議形態であったら、臨時会議は難しかったと思います。

令和5年度前期は富山県が開催県で、少しやり方も理解できてきました。

7月には、令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会(石川大会)が金沢市で開催されました。東海北陸ブロック内での全国大会開催で、皆様のご協力ありがとうございました。

令和5年度後期大会は愛知県が開催県で、前年度の前期でいろいろと連絡を取り合っていたので、意見交換がスムーズにできていたように思います。

後任運営委員長の富山県酒井さんと事務局の水木さんには、事前にくらぐ連絡網(東海北陸ブロック会女性建築士協議会のグループメール)に参加していただいていたので、なんとなく雰囲気は感じていただけていたと思います。

以前の新旧事務局の引継は、お互いの中間地に向いて、対面での引継をしていましたが、今は引継資料を宅配で送り、WEBにて引継会議をおこなっています。今回も無事に終える事ができました。

いろいろな関係が、良い方につながっていた2年間だったように思います。

運営委員長として、至らなかった所を、2年間皆さんに支えていただき、無事に任期を全うする事ができました。ありがとうございました。事務局の桂川さんいろいろなフォローを、ありがとうございました。

これからは、相談役・連合会出向者となります。

前任者の石川県矢尾さんが令和6年度全建女の運営をおこない、全建女終了後に出向者の引継ですので、今年度は7月の全建女終了後におこなわれました。

連合会女性委員会は2年間で、約27回の会議(ほとんどがWEB会議)をおこなっており、事前に第25回、第26回のWEB会議にオブザーバーで参加させていただき、ただただ大変だなと感じました。

1年間に、全建女と全国大会女性セッションを運営しなくてはなりません。

東海北陸ブロック6県の皆さんにお願いする事が多々あると思いますが、やはり私が所属している岐阜県の方により声をかける事が多くなると思います。この先の2年間もよろしくお願いします。



## 今回の記事

◇ はじめに

◇ 今回の記事

◇ 今後の予定・お知らせ

◇ 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会  
令和6年度 前期定例(新旧事務局)会議

日時:令和6年6月22日(土) 13:15~15:45

会場:WEB会議(ZOOM使用)

開催幹事:新旧事務局

参加者:27名(岐阜県4名参加)

◇令和6年度

第33回全国女性建築士連絡協議会(東京)

日時:令和6年7月14日(日)~15日(祝月)

会場:日本建築学会 建築会館とZOOM

東京都港区芝5丁目 26番 20号

参加者:約300名

(岐阜県から 対面4名、リモート2名)

テーマ:未来へつなぐ「まち・ひと・建築」

~インクルーシブな社会を目指して~

◇セミナー「コーディネーターの実践技術」

日時:令和6年7月25日(木)13:00~

場所:ふれあい会館 403 小会議室

日程 13:00~13:20 受付

13:20~13:30 講師の紹介

13:30~14:30 セミナー

講師:季紬トキツムキ 菊田和美先生

参加者:6名

◇第3回 女性委員会&見学会

日時:令和6年9月20日(金) 10:00~16:00

会場:

・会議:わかくさ・プラザ学習情報館

(住所:関市若草通2丁目1番地)

・見学会:アテナ工業アリーナ(総合体育館)

せきてらす

昼食

和紙の里会館

美濃市内(今井家住宅)見学

参加者:会議 7名 見学会 6名

◇ 編集後記



## 今後の予定・お知らせ

◆ たくみ女子会

日時:令和6年12月21日(土)

◆ 建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会

ブロックせき・みの大会

日時:令和7年2月15日(土)~16日(日)



## 建築士会東海北陸ブロック会

### 女性建築士協議会

### 令和6年度 前期定例（新旧事務局）会議

日 時: 令和6年6月22日(土) 13:15～15:45  
 会 場: WEB 会議(ZOOM使用) 開催幹事: 新旧事務局  
 参加者: 27名(岐阜県4名参加)

会議終了後 令和6年能登半島地震 被災地報告会



(↑ 集合写真)

## ◆会議報告

報告者: 長瀬 八州余

今回の前期会議の担当県は、石川県でしたが、令和6年1月1日に起こった「能登半島地震」の為、前期会議を担当することは難しいということで、新旧事務局が担当をすることになりました。

例年だと来賓は、担当県の会長にお願いしていましたが、愛知県女性委員の筒井さんが、公益社団法人 日本建築士会連合会女性委員会 副委員長 で今回の会議に参加ということで、お願いしました。連合会での、「和の空間」の冊子についてのお話を聞くことができ、よかったです。

例年通り議題を進めていきました。

協議事項につきましては、運営マニュアル書について今後とも考えていこうということで、継続事項になりました。

会議終了後被災地報告ということで、北陸3県より、報告がありました。

ニュース等で聞いていましたが、当事者の方のお話は、説得力がありました。

3県の皆様には、お忙しい中、資料の作成等ありがとうございました。

会議終了後 令和6年能登半島地震 被災地報告



(↑ 来賓として、公益社団法人 日本建築士会連合会女性委員会 副委員長 筒井 裕子氏よりお言葉を頂戴しました。)



(↑ 3県の報告開始画面)



(↑ 福井県の報告の様子)





(↑ 富山県の報告の様子)



(↑ 石川県の報告の様子)



## 令和6年度 第33回

### 全国女性建築士連絡協議会（東京）

日時: 令和6年7月14日(日)～15日(祝月)

会場: 日本建築学会 建築会館とZOOM

東京都港区芝5丁目 26 番 20 号

参加者: 対面 名 リモート 名 合計 約300名

(岐阜県から 対面4名、リモート2名)

テーマ: 未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～インクルーシブな社会を目指して～



(↑ 交流会場にて集合写真)

## プログラム

令和6年7月14日(日)

全国女性委員長(部会長)会議

11:00～12:30 於: 日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

令和6年度 第33回全国女性建築士連絡協議会(東京)

【受付】 12:45～13:30 於: 日本建築学会建築会館ホワイエ / ZOOM

【開会式】 13:30～13:50 於: 日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

総司会 筒井 裕子  
 ・開会の辞  
 ・主催挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 古谷 誠章  
 ・委員会担当副会長挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 副会長 上原 伸一  
 ・委員長挨拶、運営説明 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 本間 恵美

－ 休憩(換気) 13:50～14:00 －

【被災地報告】 14:00～14:45 (45分)

・「令和6年能登半島地震 被災地からの報告」 石川県建築士会 市川 一絵  
 山田 文恵  
 富山県建築士会 富樫久美子  
 福井県建築士会 本間美由希  
 新潟県建築士会 内藤 一恵  
 上石 茂美  
 ・「『能登半島地震』県内被害と新潟県建築士会の動き」  
 岡山県建築士会 渡辺 睦

【活動報告】 14:45～15:00 (15分)

・「繋がりをもちつこと ～災害後6年目の現在地～」 岡山県建築士会 渡辺 睦

－ 休憩(換気) 15:00～15:15 －

【基調講演】 15:15～17:15 (120分)

基調講演 1 15:15～16:00 (45分)  
 ・「一人でも多くの人に使いやすいバブリックトイレを目指して」  
 講師 真島 香氏 TOTO株式会社

－ 休憩(換気) 16:00～16:10 －

基調講演 2 16:10～16:55 (45分)

・「インクルーシブな社会を目指して～トイレから誰もが使いやすい建築を考える～」  
 講師 短島 楓氏 株式会社日建設計

質疑応答 16:55～17:15 (20分)

－ 休憩(換気) 17:15～17:30 －

【交流会】 17:30～18:30 (60分) 於: 日本建築学会建築会館 ホール

司会 鈴木 深雪  
 ・ワンバイワン 17:15～17:45 (宮城・東京・愛知・和歌山・愛媛・沖縄)  
 ・交流会 17:45～18:30

令和6年7月15日(月・祝)

【分科会】 9:00～11:00 (120分) 於: 日本建築学会建築会館3・5階会議室 / ZOOM

・A分科会 来年は山形県開催! 「魅力ある和の空間ガイドブック」 part6  
 司会者: 齊藤 裕美 (北海道建築士会)  
 コメンテーター: 三浦 仁恵 (山形県建築士会)  
 コメンテーター: 古川 美紀 (山形県建築士会)  
 ・B分科会 インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL 防災」  
 司会者: 鈴木 深雪 (福島県建築士会)  
 コメンテーター: 柏原 民 (大阪府建築士会)  
 ・C分科会 「民家の土壁修復・保存の取り組み」  
 司会者: 小貫 弘巳 (茨城県建築士会)  
 コメンテーター: 吉井 千恵子 (香川県建築士会)  
 ・D分科会 「変えていく! 建築士会」～バージョンアップへの道～  
 司会者: 矢野 志津江 (石川県建築士会)  
 コメンテーター: 杉原 尚子 (愛知県建築士会)  
 コメンテーター: 丹羽 哲矢 (愛知県建築士会)  
 ・E分科会 すまい学習をサポートしますこれから  
 ～続・兵庫県建築士会住居教育支援チームの取り組み～  
 司会者: 山本 瑠子 (奈良県建築士会)  
 コメンテーター: 八木 景子 (兵庫県建築士会)  
 ・F分科会 女性部会情報誌「フフ」と女性部会の今後について  
 司会者: 高源 真由美 (徳島県建築士会)  
 コメンテーター: 日野 緑 (岡山県建築士会)  
 コメンテーター: 渡辺 睦 (岡山県建築士会)  
 ・G分科会 未来につなぐ環境建築への取り組み～地方の建築技術者が出来ること～  
 司会者: 高橋 由美 (大分県建築士会)  
 コメンテーター: 松田 まり子 (沖縄県建築士会)  
 コメンテーター: 坂場 奈美 (大分県建築士会)

－ 全体会場へ移動 11:00～11:15 －

【全体会】 11:15～12:00 (45分) 於: 日本建築学会建築会館ホール / ZOOM

総司会 筒井 裕子  
 ・分科会報告 (3分×7分科会) 各分科会司会者  
 ・全体総評 連合会女性副委員長 小林 淑子  
 ・令和6年度第33回全国女性建築士連絡協議会アビール 連合会女性委員長 本間 恵美  
 ・第66回全国大会鹿児島大会参加のご案内 鹿児島県建築士会女性部会長 西野 千夏  
 ・令和7年度第34回全国女性建築士連絡協議会(山形)参加のご案内 山形県建築士会女性委員長 村山 紀子  
 ・閉会の辞

## 《記事の目次》

- ◆オンラインで参加して
  - ◆全体報告
  - ◆全国女性委員長(部会長)会議に参加して
  - ◆被災地報告
  - ◆活動報告
  - ◆基調講演報告
  - ◆交流会報告
- 分科会 ●A分科会  
●B分科会  
●C分科会  
●G分科会

## ◆オンラインで参加をして

報告者:下川 滝美

第一日目の開会式、被災地報告、基調講演をウェブナーで参観しました。

何度も経験はしていたのですが油断をしていました。ウェブナーの場合、参加型ではなく視聴型なので予め名前と県名を直しておかないといけません。

いつものつもりで ZOOM に入ってから変更できると思っていたらできずに3度入りなおしました。

開会式は音声ハウリングしていて聞きづらく Q&A で「音声聞き取りにくい」と送りました。

被災地報告になるとマイクに切り替えたせいかまったく音声が聞こえません。

またまた「音声が出ていません」と投稿。Q&A は主催者と発表者にしか見えないと書いてありましたが会場にも見えていたようでちょっと恥ずかしい思いです。

でもそのおかげで10分後に音声聞こえるようになりました。

多少まわりの音声が入りながらも被災地報告を聞くことができました。

最初はこの状態でウェブナーでの感想を書くのは辛いな~と思っていたのですが発信元の方が何度も調整をしてくれたおかげで途中から最後まで快適に視聴ができました。

チャットや Q&A という手段で双方向のやりとりができ対応していただいた方に感謝です。

ということで被災地報告の途中からの感想になります。

理由はわかりませんが画像の精度があまりよくなく手元の資料を見ながら視聴しました。

石川県からはじまり北陸3県の発表では実際に被災された方の暮らしや被災されているながらも支援等に対応された方々の苦労を生の声で聴くことで被災地の大変だった様子がよくわかりました。また新潟県建築士会の報告では隣県であり被災をしている方も多量中、建築士会の対応の速さも感心しました。岐阜県も隣県ではありますが何か力になれることはなかったか、これからもできることがあれば。。。と思うことしかできませんでした。岡山県の発表は、災害後6年目の現在ということで平成30年7月の西日本豪雨災害から現在までの活動を発表されました。豪雨災害はどこでも起きうる災害で他人事とは思わずに聞いていました。

災害がおきてからつながりを持つことではなく今平穏なときから建築士という立場でつながりをもつことの大切さを改めて教えてもらいました。私はもう支えてもらう立場なのですが若い建築士の方々の地域での活動に期待したいと思いました。

基調講演は2部にわかれていました。どちらも最近よく言われるウェルビーイングについて話されました。真島氏は TOTO の UD の考え方、畑島氏はインクルーシブな社会を目指してトイレについての考えを事例を通してお話していただけてとても楽しく聞くことができました。

トイレの考え方にも若い方の発想は夢がありまた ABW の考え方のオフィスの話では、最近のドラマのオフィスが ABW の考え方で設えてあることに今さらですが気が付きました。

畑島氏は建築デザイナーとして活躍する中セクシャルマイノリティの当事者として発言活動もしています。

テレビなどで拝見したこともあります。

畑島氏は具材を煮込んでしまうカレーではなく「出汁の効いたおでん型の社会をつくりたい」と言われました。多様性(おでんの具)の共存が社会の強みになる。社会という出汁の中で個人も活躍しそれが社会に還元される。という最後のまとめが印象的でした。

コロナ禍という大変な時期もありましたが、障がいを持った私でもWEBという形でいろんな方と繋がる手段ができ全建女に今回も参加できたことに感謝いたします。





## ◆全体報告

### 令和6年度 第33回 全国女性建築士 連絡協議会(東京)に参加して

報告者:長瀬 八州余

7月14日・15日の全建女東京大会に参加しました。  
資料の袋の中には、要旨集・名札入れ・TOTO の資料集の他に、来年の建築士会全国大会おおさか大会のPR用紙の入った袋と、昨年の全建女石川大会を行った石川県の女性委員会のリーフレット「花だより」(石川大会の記事有り)が入っていました。



(↑受付でもらった資料)

#### 【一日目】

午前中に令和6年度全国女性委員長(部会長)会議がありました。

受付後 13:30 から開会式です。

連合会の会長が近角氏から古谷氏に、女性委員会担当副会長は秋田県の淡路氏から神奈川県の上原氏に変わりました。



(↑古谷会長と上原副会長)

数年続いている、畳屋さんですが、今年は7月14日の一日のみの開催でした。



(↑畳でおもてなしブースの様子)

被災地報告は能登半島地震関係の報告でした。

石川県、富山県、福井県、新潟県からの報告がありました。



(↑北陸3県の発表の様子)

活動報告として、岡山県から「繋がりをもつこと ～災害後6年目の現在地～」と題して、西日本豪雨災害から6年後の現在の報告がありました。



(↑岡山県の活動報告の様子)

基調講演は基調講演1では TOTO 株式会社 UD・プレゼンテーション推進部 東京プレゼンテーショングループ 企画主査の真島香氏の「一人でも多くの人に使いやすいパブリックトイレを目指して」と題して講演いただきました。

基調講演2では、株式会社日建設計の畑島楓氏より「インクルーシブな社会を目指したトイレから誰もが使いやすい建築を考える」を台湾の台北よりリモート参加で講演いただきました。(仕事の関係でどうしても帰ることができなかったとの事です)

基調講演中は写真撮影禁止、WEB 参加のかたは、スクリーンショット、録画の禁止がありました。

交流会では最初に、「ワンバイワン」があり、宮城県、東京都、愛知県、和歌山県、愛媛県、沖縄県 6県からの報告がありました。

その後、おのおの交流をしました。来年の全建女は山形県なので、山形県の方は積極的に皆さんと交流を図っていたようです。



(↑鹿児島県の人々が来ているパーカー)



(↑交流会 全体の様子)

一日目終了後、岐阜県の4名は、富山県から参加の3名と一緒に居酒屋にて交流会を持ちました。他県の方とこのような交流会を持つことは初めてで、楽しい会でした。

## 【二日目】

二日目は分科会なので、各々自分の参加する会場へ向かいます。

大会アピールが本間委員長よりありました。今年の10月に開催される建築士会全国大会鹿児島大会のPRが鹿児島県の女性委員会よりありました。



(↑全国大会鹿児島大会のPRの様子)

来年の全建女「山形大会」のPRが山形県の女性委員からありました。



(↑全建女山形大会のPRの様子)



無事に令和6年度 第 33 回全国女性建築士連絡協議会(東京)大会は終了しました。

連合会の女性委員会の委員はこの全建女をもって任期が終了です。

今回は委員の入れ替えがありました。

本間委員長は退かれて、北海道建築士会の会長に就任されました。

女性委員会の委員長は、副委員長だった、大阪建築士会の石貫さんがなられます。

副委員長は愛知県の筒井さんと宮城県の小林さんは留任で、新たに女性委員だった、北海道の斎藤さんが新副委員長になります。

各ブロックからのブロック代表委員は全て新人です。

外部の業者に頼むこと無く、青年委員の手助けはお願いしていますが、ハイブリッドで運営している全建女です。今年も少し音声等の不備があったと聞いていますが、年々経験を積んで、最初の頃と思うと体制は整ってきていると思います。WEB で参加している皆さんには、温かい目で見ただけのとありがたいとおもいます。

## ◆全国女性委員長(部会長)会議に参加して

報告者:岡田 利里

これまで全建女に出るたび、全国女性委員長(部会長)会議というのは、普通に会議室で机を円にして行う会議をイメージしていました。

初めて出席しましたが、ホールで前を向いての会議で、少し緊張がほぐれました。

今年度から連合会会長になられた古谷誠章氏の、女性ならではの視点から社会を変えてほしいという開会挨拶、副会長の上原伸一氏の挨拶がありました。

協議事項では、令和6年度第33回全国女性建築士連絡協議会(東京)のアピール(案)の提示があり、徐々に気分が盛り上がってきました。

各都道府県活動報告は、各県1分とのことでしたが、私は途中でベルが鳴ってしまい、少し端折って報告しました。

東海北陸ブロックの活動報告はブロック会議で聞く機会が多いですが、全国の他県の活動報告は、全国女性委員長(部会長)会議でしか聞けないので(要旨集には載っていますが)、今回聞いた内容を、岐阜県の活動にも

生かしていきたいと思いました。



(↑会場の様子)



(↑岡田さんの発表の様子)

## ◆被災地報告

報告者:井之口 洋子

令和6年能登半島地震について、北陸3県と新潟県からの報告がありました。

今年の元旦に起きた地震ですが、いまだ復興途中という報道を見ます。

比較的北陸に近いところに住んでいるので、とても興味深く聞きました。

石川県では実際に起きた状況を時系列で報告されてきました。

モノの散乱している様子の写真は生々しく、かなりの揺れがあったと感じさせるものでした。

地震後の1/4~は応急危険度判定も始まったそうです。その後は住宅相談の要請があって会員の方が参画さ



れたようですが相談者の方に大丈夫ですよと声を掛けるだけで落ち着かれる方もいたそうです。

そんな中でも、震源地に近い珠洲市へ応急修繕に行かれた様子も報告があり、行くまでの困難さ等々とても大変だったことが分かりました。

富山県では国宝勝興寺の話があり、耐震補強工事が終わっていたため大きな被害がなかったそうです。

又被害が大きかった地域は地名に沼や水の文字が付いているところだったと聞き、昔からの地名を知っておくことも必要だと感じました。

福井県、新潟県では液状化現象化被害があり、その地区の被害が大きかったようでした。

特に福井県の方は経済を止めないことの重要性についても報告されていました。

平常時にどこまで行政と連携や交流が取れているかで非常時にとっても役立つことや、災害時のネットワーク、情報共有が必要なことも報告されました。

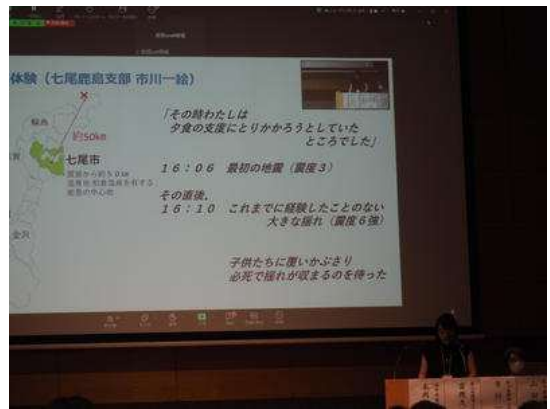
また、被災後半年たった時点での被災者の方々の困りごとで一番多かったのが「居住環境」であったそうです。

建築士であることで、色々な場面でその知識、経験を役立てる機会があったにも関わらず、地震発生時には無力さを感じていることもあったと、悔しい思いをにじませながらの報告もありました。

報告を聞きながら、自分にできることは何だろうかと改めて考えることになりました。



(↑福井県からの報告)



(↑石川県からの報告)



(↑富山県からの報告)



(↑最初に北陸3県からの報告です)



(↑新潟県からの報告)

## ◆活動報告

報告者:井之口 洋子

被災地報告の後は岡山県からの活動報告でした。  
2018年(平成30年)の西日本豪雨災害から6年経った現在の様子です。

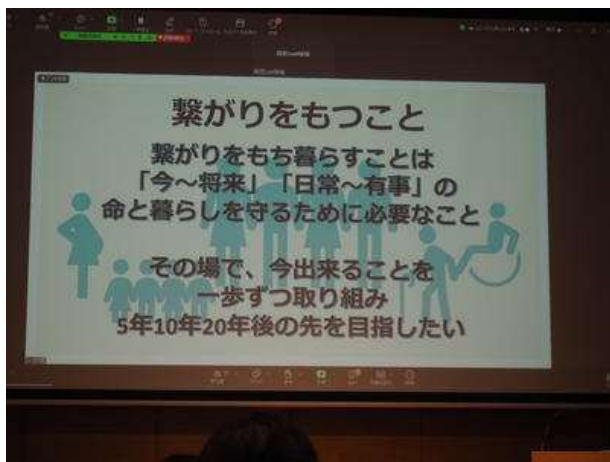
災害後6年がたち、様々な事業や支援が終了し節目の時期と捉えていました。

災害のあった2018年から被災者、行政、社協、民間団体、NPO他と繋がりが始め、岡山県被災者支援士業連絡協議会、岡山建築士会災害対策委員会と立ち上げてどんどん繋がりを伸ばしていったそうです。

地域に入っただけの活動もあり、防災啓発活動なども積極的に行われていました。

また、ライフオーガナイザーとのコラボで防災についての知識も深めるなど、さまざまな視点での活動をして、地域の方々と繋がっていく様子が報告されていました。繋がりを持つことで、防災意識も高まり、地域のできることで増えていくのだと分かりました。

今まで、災害が少ない地域に住んでいて防災に意識が向いていなかったのですが、できることから始めてみたいと思う活動報告でした。



(↑岡山県からの報告)

## ◆基調講演報告

報告者:高野 栄子

今年度全建女は未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～インクルーシブな社会を目指して～  
というテーマで基調講演もバリアフリーとユニバーサル

デザインについてTOTO株式会社の方と日建設計の方のお話を聴きました。

●基調講演1「一人でも多くの人に使いやすいパブリックトイレを目指して」

講師 真島香氏 TOTO株式会社 UD・プレゼンテーション推進部

バリアフリートイレについてオストメイトのかたは、使用時間が30分～40分かかると多目的トイレを兼ねて使用することです。

またトランスジェンダーの方は外出先でトイレにストレスを感じる人が多いそうです。

高齢者の介助者、障がい者の家族、乳幼児連れのお母さんなど多くの方が外出先でのトイレに困っているという現状で、出来るだけの問題解決のためのトイレを計画する必要があるそうです。

●基調講演2 インクルーシブな社会を目指してートイレから誰もが使いやすい建築を考えるー

講師 株式会社日建設計 畑島 楓氏

講師の方はセクシュアルマイノリティの当事者で、かつ設計者という立場でトイレを考えてみました。

最近ではマイノリティという言葉が浸透し、ごく普通になっています。

トイレという空間は排泄だけでなく多種多様なことを行う個室としての役割があり、ますます快適化がされている場所だと感じました。

オールジェンダートイレという考え方はとても大切です。が現実には中年男性が入ったすぐあとに若い女性が使うのはちょっと、とか若い女性がくつろいだすぐあとに男性が使うのもちょっと... いろいろな思いはあると思います。

インクルーシブという言葉は大切で差別、排除はない方がよいと思います。が私は区別が必要な時もあるとは思っています。

今回の講演はどちらも令和の時代らしく、新しいユニバーサルデザインについて考える良い機会になりました。

今回の基調講演は写真撮影等が禁止だったため、会場等の様子の写真はありません





# ◆交流会報告

報告者: 長瀬 八州余

交流会では、最初にワイハンワンの発表がなされました。今年には宮城県、東京都、愛知県、和歌山県、愛媛県、沖縄県の6県の発表でした。



(宮城県 記憶の中の住まい)



(東京都 この期は委員の入れ替えが多く、今は委員同士の交流に力を入れています。)



(愛知県 すまいのえほんワークショップ(一般しみん市民向け・住育に関する活動))



(和歌山県 以前福井県の活動発表を見て、木育活動に活用できると思い、福井県に連絡をとりノウハウ等を教えていただき、和歌山県でも紀州材を使用した「木のカレンダー・時間割」の活動をしているとの事でした。活動が他県にも広がっている事に感動を覚えました。)



(愛媛県 県内見学会「紙のまちの建物見学会 in 四国中央市川之江地区。異業種交流会でランタン制作。暮らし+ (プラス) 勉強会「春色春色トピアリー作りワークショップ」)



(↑ 沖縄県  
「建築見学交流会 in KIHOUSE～名建築で朝食を～」  
全国委員長会議での説明ではイメージできませんでしたが、映像があるとよくわかります。)



(↑ 来年全建女開催の山形県の女性委員と交流)

## 7月15日 二日目 分科会

[分科会] 9:00～11:00 (120分) 於: 日本建築学会建築会館3・5階会議室 / ZOOM

- A分科会 来年は山形県開催! 「魅力ある和の空間ガイドブック」part6  
司会者: 齊藤 裕美 (北海道建築士会)  
コメンテーター: 三浦 仁恵 (山形県建築士会)  
コメンテーター: 古川 美紀 (山形県建築士会)
- B分科会 インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL防災」  
司会者: 鈴木 深雪 (福島県建築士会)  
コメンテーター: 相原 民 (大阪府建築士会)
- C分科会 「民家の土壁修復・保存の取り組み」  
司会者: 小貫 弘巳 (茨城県建築士会)  
コメンテーター: 吉井 千恵子 (香川県建築士会)
- D分科会 「変えていく! 建築士会」～バージョンアップへの道～  
司会者: 矢尾 志津江 (石川県建築士会)  
コメンテーター: 杉原 尚子 (愛知県建築士会)  
コメンテーター: 丹羽 哲夫 (愛知県建築士会)
- E分科会 すまい学習をサポートしますあれから～  
～総・兵庫県建築士会住教育支援チームの取り組み～  
司会者: 山本 瑠子 (奈良県建築士会)  
コメンテーター: 八木 景子 (兵庫県建築士会)
- F分科会 女性部会情報誌「フフ」と女性部会の今後について  
司会者: 高瀬 真由美 (徳島県建築士会)  
コメンテーター: 日野 緑 (岡山県建築士会)  
コメンテーター: 渡辺 睦 (岡山県建築士会)
- G分科会 未来につながる環境建築への取り組み～地方の建築技術者が出来ること～  
司会者: 高橋 由美 (大分県建築士会)  
コメンテーター: 松田 まり子 (沖縄県建築士会)  
コメンテーター: 坂巻 奈美 (大分県建築士会)

参加人数は分科会報告での人数です。  
会場で人数の報告がなかった分科会の参加人数は、括弧内で、申し込みでの人数です。

A分科会	対面	29名	WEB	13名	合計	42名
B分科会	対面	35名	WEB	20名	合計	55名
C分科会	(対面)	15名	WEB	8名	合計	23名)
D分科会	(対面)	28名	WEB	10名	合計	38名)
E分科会	対面	14名	WEB	4名	合計	18名
F分科会	(対面)	19名	WEB	2名	合計	21名)
G分科会	対面	40名	WEB	7名	合計	47名

(岐阜県参加分科会を示す)

## ● A分科会

来年は山形県開催! 「魅力ある和の空間ガイドブック」part6

司会: 齊藤 裕美 (北海道建築士会)  
コメンテーター: 三浦 仁恵 (山形県建築士会)  
コメンテーター: 古川 美紀 (山形県建築士会)

報告者: 長瀬 八州余

「魅力ある和の空間ガイドブック」の山形県には7件の建物の紹介が載っているが、そのうちの4件 清風荘-宝紅庵、料亭 四山楼、上杉伯爵邸、公益財団法人本間美術館 清遠閣・鶴舞園 の紹介がありました。

最初に山形県の説明で、夏は暑く、冬は雪が多く、全県が豪雪地帯だということです。

建物は、高床式で屋根に雪割が付いている。

雪は大変だが、湧水が多く、自然の恵みを受けている

### ● 清風荘-宝紅庵

市民公園 もみじ公園の中にある、市の施設である。

### ● 料亭 四山楼

登録有形文化財で今も料亭として営業している。

近くに2件料亭があったが、料亭を維持することは難しい時代となり、今は廃業となった。

### ● 上杉伯爵邸

登録有形文化財

庭を眺めながら、食事ができる。



●公益財団法人本間美術館 清遠閣・鶴舞園  
鳥海山を借景とした池泉回遊式庭園

女性委員会の活動として、「魅力ある和の空間ガイドブック」の資料を作成するにあたり、見学会等を行い、山形県だけの紹介をした折りたたみ式のリーフレットを作成した。

A1版、A2版の建物のポスターを作成して、ご希望の所には、置いてもらっている

追加資料として、「山形県9支部おすすめ！建築&グルメ【地域別紹介】」が配布されました。

山形県は4つの地域(庄内地域、最上地域、村山地域、置賜地域)に別れており、

庄内地域:酒田支部、鶴岡支部、

最上地域:新庄支部、

村山地域:西村山支部、村山支部、天童支部、山形支部、

置賜地域:長井支部、米沢支部

9支部がある。

資料に沿って、説明を受けていたが、時間がなく、途中で終了になってしまいました。

山形は広いので、全建女に来て、観光地を回るのであれば、レンタカーを借りるのがよいとの事でした。

米沢支部の活動として、残したい建物・町並みに関与している建物について「景観賞」という事業をしていたが、予算が付かなくなり、建物の維持管理ができなくなってきている。

岩手県の人、北海道札幌支部の人などの意見が出て、全国的に維持管理ができるような資金計画を考えていく事が必要であるとの意見が出ました。



(↑山形市のパンフレットと参考資料と山形のせんべい)



(↑会場からリモート参加者を見る)



(↑意見交換の様子)



● B分科会

「インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策  
「JOL 防災」

司 会:鈴木 深雪(福島県建築士会)

コメンテーター:柏原 民 (大阪府建築士会)

報告者:伊藤 麻子(WEB 参加)

インテリアコーディネーターでもある発表者は、ご自身が大阪から千葉県に転居され、周囲の人達が家具に囲まれて寝ている事に大変驚いたとのこと。その危機感から、所属する(一社)日本インテリアコーディネーター協会から自ら「防災とインテリア研究会」を立ち上げ、セミナーや冊子作成などの活動を行なってこられた内容を聞きました。

「防災を優先すると残念なインテリアになる」という課題に対して『JOL 防災』(ジョルぼうさい)というコンセプトで安全と美観、暮らし良さを両立させる提案をされています。2019年には小冊子も作成し、セミナーやIFFT(東京国際家具見本市)への出展を行ないました。  
・・・JOL: Joy of Living = 暮らしを楽しみ、住まう喜びを追求すること

### 『JOL 防災』の要点

各空間の特性から対策する。家具やモノは減らし、出入口付近は避難の空間を確保するため、レイアウトには配慮すべき。

集:リビングダイニングなど スムーズな動線が避難ルートになる。

眠:寝室 家具ゼロが理想だが、せめて枕元だけでも安全にする。

働:キッチンなど モノが集まる場所なので、危険な場所として対策する。

その他、家具固定対策について具体的な事例を多く紹介、またその課題も出されました。

・設計の際に家具固定のための補強下地など積極的に進めていきたい。

・現在は正しい仕様がなかったので、最善の基本を確率させたい。

・各分野(建築下地、器具金物、家具家電)同士の連携が必要。

・制度の整備や福祉との連動は必要であるが、室内の家具固定対策についての専門所管はないのが現状。

以上、なかなか個人住宅の室内にまで立ち入る事が大変困難な中、それ故自分たちが声をあげ続けていかなければいけないとお話でした。私も木造耐震診断や介護保険制度の住宅改修などの場面でも、「もっと立ち入れたら良いのに。」と歯がゆい思いをすることがありますが、やはり多くの方に知って頂く努力は怠ってはいけないと確信しました。

たくさんの事例やインテリア 3D 画像でとてもわかりやすい発表でしたが、予定時間を超過し、質疑応答などの時

間が少なかったのが残念でした。全建女の分科会の意見交換は白熱する事が多くて楽しみなのですが、毎回時間が足りないですね。



(↑会場準備の様子)



(↑会場の様子)



(↑会場から見たリモート参加者)



## ● C 分科会

### 「民家の土塀修復・保存の取り組み」

司 会 : 小貫 弘巳 (茨城県建築士会)  
コメンテーター: 吉井 千恵子 (香川県建築士会)

報告者: 高野 栄子

土塀を修復し再生させる「弘川土塀再生プロジェクト」という活動の報告です。

大正 3 年に作られた土塀を修復し保存する活動を通じて、物だけに限らず地域の成り立ちや事ありかたについて考える活動でした。

コメンテーターの吉井さんは香川県建築士会のヘリテージマネージャーとして活動してみえます。吉井さんの実家の土塀を修復する過程を発表されました。土塀は傾いて崩れ掛けていたので、はじめは壊すつもりではじめたのですが、基礎に近くの河原の石が使っており、地域の特徴としての出水(湧き水)を管理し、農業をおこなっていたことなど土塀が残ることの意味など暮らし方を伝承する重要な役割を考え保存再生することに変更したそうです。

地域の方やいろいろな職種の方が参加され、楽しく再生をするワークショップを開催されています。

土塀そのものに歴史的価値があることはもちろんですが、地域とのコミュニケーション、左官技術など伝統技術の継承、登録文化財所有者の啓蒙など、活動そのものに価値があるのだと思いました。



(↑C 分科会の様子)

## ● G 分科会

### 「未来につなぐ環境建築への取り組み～地方の建築技術者ができること～」

沖縄形気候風土適応住宅の特性を考える  
コメンテーター: 松田 まり子氏(沖縄県建築士会)

大分県建築物グリーン化促進事業の取り組みについて  
コメンテーター: 板場 奈美氏(大分県建築士会)

報告者: 岡田 利里

もうすぐ、2025 年 4 月から、ほぼすべての建物に省エネ基準が適合義務化されます。テーマにある、地方の建築技術者として興味を持ったので、この分科会に参加しました。

最初に、沖縄で設計事務所を営む松田まり子さんが、花ブロックという特徴的な材料が建物の外観を彩る RC 造平家建ての住宅について発表されました。

お子さんがカビアレルギーのあるご家族ということで、床下や天井裏といった空気の溜り場を作らないようにし、シンプルな形状でありながら花ブロックから漏れる明かりが優しい感じのする建物でした。

花ブロック＝いわゆる穴あきブロックは、外部と内部を緩やかにつなぐ空間を作るのに適していると思いますし、身の回りでも割とよく見かけるものですが、松田まり子さんは、CFD 解析を、行いゾーニング検証をして、風が当たる部分に花ブロックを使い、敷地に吹いてくる風を余すところなく取り入れ、建物の中の空気の流れも考えて間仕切り壁の位置を計画するという、とても丁寧な設計をされていると感じました。

二人目のコメンテーター、大分県の板場奈美さんの発表は、大分県建築士会が大分県から委託されて行ったという、省エネ建築物の普及促進への体制を整備し、建築物の環境品質の向上を目指す事業についてでした。まず建築関係団体、教育団体等とのネットワークを構築し、県内の省エネ建築物の状況を調査し、技術者向けの研修会や県民向けフォーラムを開催し、啓発チラシや省エネ住宅設計指針を作成する等、とても充実した内容でした。今年度で、3か年に渡る建築物グリーン化促進事業が終了するそうです。

以上、G分科会は、会場 40 名、オンライン 7 名と人数も学びも多かった分科会でした。

## セミナー

### 「コーディネーターの実践技術」

日 時：令和6年7月25日(木)13:00～

場 所：ふれあい会館 403 小会議室

日 程：13:00～13:20 受付

13:20～13:30 講師の紹介

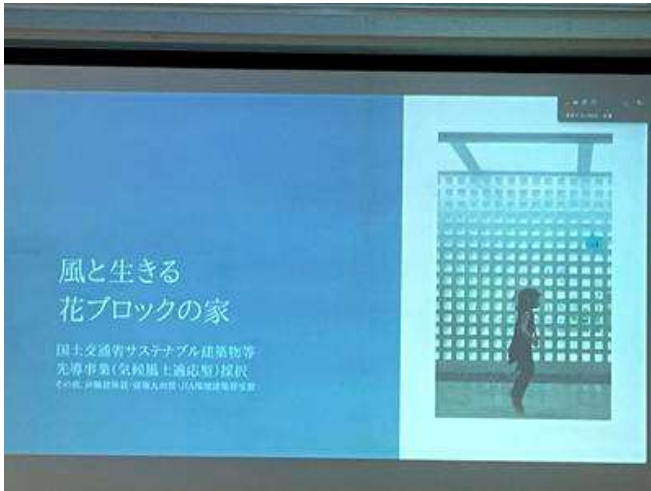
13:30～14:30 セミナー

講 師：季紬トキツムキー 菊田和美先生

参加者：6名

### ■セミナーに参加して

報告者：高野 栄子



(G 分科会 沖縄県の発表スクリーン画像)



(G 分科会 沖縄県の発表の様子)



(G 分科会 大分県の発表の様子)

### 【コーディネート実践～壁紙～】

講師：インテリアコーディネーター 菊田和美氏

女性委員会の講習会としてインテリアコーディネーターの方を講師に迎え 内装のコーディネートについて学びました。工務店でリフォームの営業をされていた方で300件以上のリフォームを担当してみえました。

壁紙のコーディネートのポイントや選び方、床材との合わせ方などをわかりやすく説明して頂き、選ぶ上でのポイントを絞ったお話でした。ソフトとハード、ウォームとクールで分類し、柔らかい、硬い、華奢な、頑丈ななどイメージにあわせて色合いを決めていくといいそうです。また壁紙の見本帳の見方もお話いただき、いろいろな用途や場所によっておすすめの壁紙についてお教えいただきました。明日からすぐにも仕事に役立ちそうな実践的な内容でとても良かったです。勉強になりました。



(↑ セミナーの様子)





## 第3回 女性委員会&見学会

日時:令和6年9月20日(金) 10:00~16:00

会場:

・会議:わかくさ・プラザ学習情報館

(住所:関市若草通2丁目1番地)

・見学会:アテナ工業アリーナ(総合体育館)

せきてらす

昼食

和紙の里会館

美濃市内(今井家住宅)見学

参加者:会議 7名 見学 6名



(↑アテナ工業アリーナ(総合体育館)の入り口)



(↑ 昼食会場にて集合写真)

第3回女性委員会後、令和7年2月15日、16日に開催予定の「令和6年度ブロックせき・みの大会」ブロック事業での分科会での町歩きの下調べをおこなった。



(↑ 会議の様子)

## 見学会報告

報告者:井之口 洋子

午前の例会終了後は 先ずは2日目(2月16日)の会議の予定をしているアテナ工業アリーナの2階にある会議室までの経路を見てきました。



(↑会議室前の通路。会議室中を見ることはできませんでした。)

移動して東海北陸ブロック大会の開会式が行われる予定の「せきてらす」の見学をしました。



(↑せきてらす玄関。「せきてらす」は地域交流施設で、敷地内に刃物会館や観光案内所があります。)



(↑開会式を予定している多目的ホール「じゆうなひろま」)

せきてらすの隣にあり、ジビエ料理が食べられる「濃州関所茶屋」でお昼を食べました。



(↑昼食会場の濃州関所茶屋の玄関)

昼食の後は開会式の後に移動予定の美濃和紙の里会館へ移動しました。

それぞれがナビなど頼りに時間を図り、おおよそ 40 分くらい移動にかかると分かりました。

美濃和紙の里会館では、当日の所要時間の確認(30人が順に紙漉き体験することで 50 分)、手すき和紙の乾燥時間(約15分)、体験をしていただく順番などを話し合いながら施設内を見学しました。(紙漉き体験は皆さん経験済でしたので、ナシに)



(↑和紙の里会館にて、会館側と打ち合わせ)



(↑和紙の里会館の内部)

そして、大会当日はそこから美濃市へ移動ですのでこちらも時間を計りながら移動です。皆さん 15 分ほどで美濃市健康文化交流センターの駐車場へそちらで大会の日程の再確認をして解散となりました。

その後お時間のあった3人で美濃市の今井家住宅へ見学に行かれました。



(↑今井家住宅にて集合写真。駐車場から7分~8分ぐらしかかります。)





## 編集後記

53号をお届けします。

10月の発行ということで、マークはガーベラを使用しました。

ガーベラは四季咲き性を持つ植物で、花の季節は春～秋で、開花時期は3月～11月。最低気温が10℃以上あれば開花するため、日本では、4月～6月、9月～11月頃が開花時期です。

令和6年度前期(4月～9月)の報告となっています。

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。  
また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会  
岐阜市藪田南5丁目14番地12号  
岐阜県シンクタンク庁舎4階



TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

E メールアドレス [kensi578@juno.ocn.ne.jp](mailto:kensi578@juno.ocn.ne.jp)

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

